

# 石川県土砂災害情報システム（SABO アイ）の改良

石川県 土木部 砂防課 主任技師 加藤 哲朗

## 1 はじめに

近年、全国各地で土砂災害が多発しており、今年には西日本豪雨、昨年には九州北部豪雨により、多数の死傷者を伴う甚大な被害が発生しました。

石川県では、近年多発する土砂災害から人命を守るため、関係者が意識を共有し、住民の防災意識向上と、迅速な避難行動につなげる方策を検討することを目的に、「土砂災害対策連絡会」（以下連絡会）を平成 26 年度に設置しました。

連絡会では、住民の生命を守るための具体策として、4 本柱でとりまとめた「土砂災害対策アクションプログラム」（図-1）を平成 27 年 3 月に策定し、「迅速でわかりやすい情報発信」の取り組みとして『土砂災害情報システム（SABO アイ）』（以下 SABO アイ）の改良を実施しています。

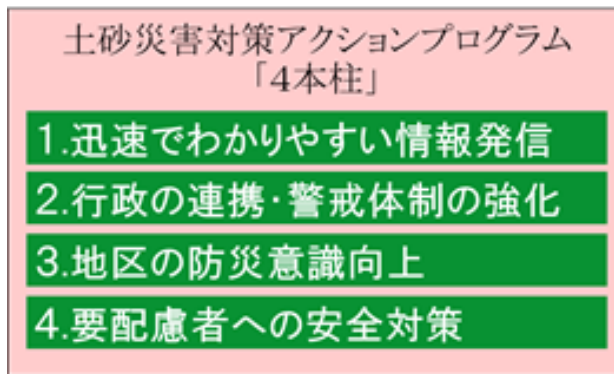


図-1 土砂災害対策アクションプログラム「4 本柱」

## 2 SABO アイとは

SABO アイは、土砂災害警戒区域や土砂災害危険度等の情報をリアルタイムにインターネットで公開するシステムであり、県や市町等の防災活動及び県民の避難行動に必要な土砂災害に関する情報を提供しています。

近年頻発する集中豪雨時においては迅速できめ細かな情報提供が求められるようになってい

ことから、県民の方々がより見やすく、利用しやすいように、平成 29 年度トップ画面の表示を変更（図-2）するなどシステムの充実を図りました。



図-2 土砂災害情報システム（トップ画面）

## 3 SABO アイの改良内容

### 3. 1 迅速で分かりやすい土砂災害危険度の提供

集中豪雨により、急激に危険度が高まるケースに対応するため、危険度の更新間隔を従来の 30 分から 10 分に短縮し、時系列で表示していた土砂災害危険度を、2 時間先まで一目で確認できるようにすることで住民の早期避難を支援しています（図-3）。

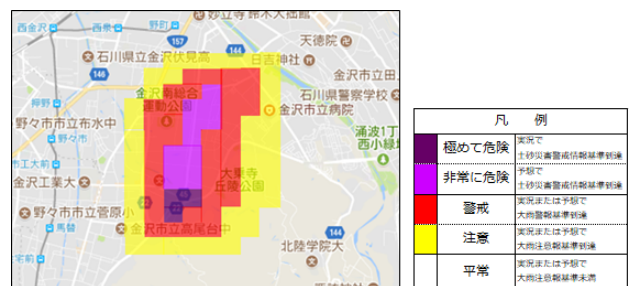


図-3 土砂災害危険度の提供

### 3. 2 きめ細かな情報提供

土砂災害警戒情報は市町単位で発表されますが、具体的に危険度が高まっている地区が分からないという声もあったことから、本県では特に危険度の高まっているエリアを知らせるため、市町

名に加え、地区・校下名を新たにトップページで表示することとしました。(図-4)

また、10分毎に「危険」となった地区・校下名を追記し、表示することで、一目でどこに危険が高まっているかを把握することができます。



図-4 地区・校下名の表示

### 3. 3 スマートフォン対応

スマートフォンの普及に伴い、表示画面が大きく見やすく、ボタン操作も容易な、スマートフォン専用画面を作成しました。GPS機能を活用することにより、現在地周辺の土砂災害に関する情報を表示し、容易に確認出来るようにしました(図-5)。これにより、速やかな自主避難の判断にも役立つものと考えております。

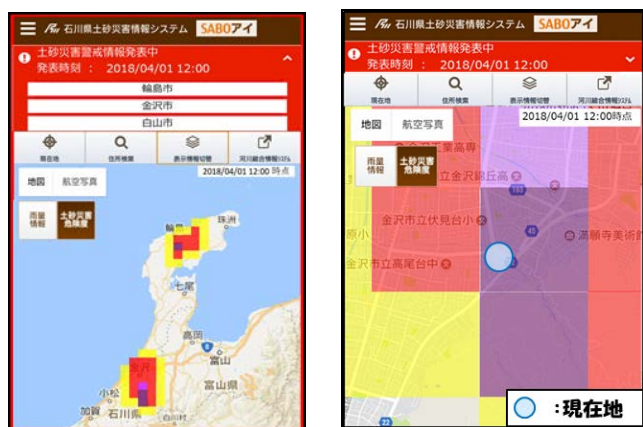


図-5 スマートフォン専用画面

### 3. 4 自主防災マップの作成

土砂災害対策アクションプログラムの4本柱の1つである「地区の防災意識向上」において、地域の自主的な防災・避難活動を支援してきており、今回の改良で「自主防災マップ作成支援ツール」を提供しました。(図-6)

自分で避難場所や経路を自由に配置できるようになっており、この機能を活用することでマップ作成の省力化にも繋がっています。



図-6 自主防災マップ作成支援ツール

### 4 緊急速報メール

大雨警報が発表されている状況で、土砂災害の危険性がさらに高まった際に、気象台と県が共同で土砂災害警戒情報を発表しています。

土砂災害警戒情報については、テレビやラジオ、防災無線、インターネット等を使って迅速な情報伝達を行っていますが、本県では、平成27年度から迅速で確実に、きめ細やかな情報を伝達することを目的として、該当する市町に滞在する全ての方の携帯電話やスマートフォンに緊急速報メールでお知らせしています。

さらに、メール本文に土砂災害の危険が非常に高まっている地区名・校下名を具体的に記載することで(図-7)、速やかな市町の避難所開設や住民の早期避難を支援しています。

### 5 おわりに

本システムへのアクセス数は、平成24年度の約3万件から年々増加し、昨年度は梅雨前線や台風による豪雨が度々発生したことから、過去最多の約14万5千件あり、本システムは多くの方々の情報収集に役立っていると思料していますが、今後とも、啓発チラシや研修会などを通じてさらに周知を図るとともに、速やかな警戒避難体制の構

築や住民の避難行動につながることを期待し、迅速でわかりやすい情報発信に努めていきたいと考えています。

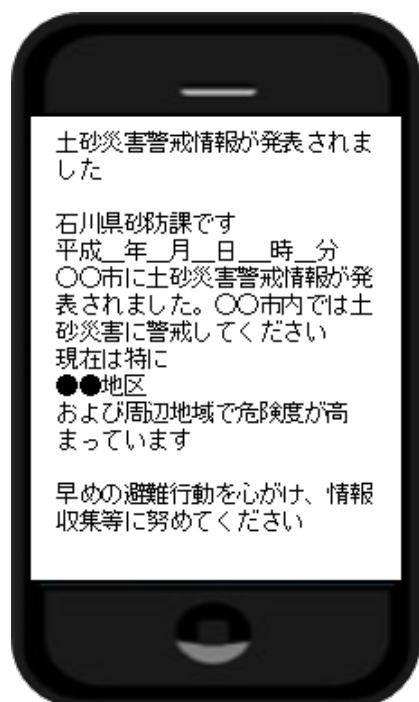


図-7 緊急速報メールの配信画面